

平成 14 年度
愛知県周産期医療協議会調査研究事業報告書

愛知県内のハイリスク新生児の
退院後の地域での支援体制（保健師活動）
に関する実態調査（2年次）報告

平成 14 年度調査結果

あいち小児保健医療総合センター
総合診療部長・保健室長 山崎嘉久
保健室 中澤和美

平成 15 年 10 月

はじめに

虐待予防を始めとする健やかな親子の実現のため、子育て支援の立場での周産期医療と保健活動の連携が地域の母子保健活動における重要な課題である。愛知県周産期医療協議会の平成13年度調査から、ハイリスク新生児が地域の保健支援活動を享受するためには、医療機関からの働きかけが有効であることが明らかとなった。

平成14年度においてはこの結果を踏まえ、有効な連絡方法を検討するため保健機関関係者と医療協議会関係者により子育て支援に視点を置いた連絡票を作成し、これを用いた介入的な調査を実施した。

対象および連絡票作成と介入、調査の方法

平成14年11月から平成15年1月の期間に協議会参加の医療施設を退院または退院予定の患者・家族のうち調査に同意が得られた家族を対象とし、医療機関の判断で連絡の必要な状態(育児上の問題がある、療育が必要、要支援家庭児、若年出産、母が精神疾患を有する、基礎疾患のある児など)を有する患者・家族については、家族の了解を得た上で連絡票(事務局より配布)等を用いて患者情報を共有した。なお連絡票・連絡項目は協議会関係者、保健機関関係者による会合で検討し作成した。

1. 保健機関関係者と周産期医療協議会関係者による連絡票の作成

平成14年9月12日(木)午後16時より、下記の参加メンバーによる会合を名古屋第一赤十字病院にて開催した。その結果、平成14年度調査に使用する「連絡票」に関して、

- 1) 連絡票送付が必要な状態(=積極的な保健サービスを要する状態)。
- 2) 連絡票および医療機関と保健機関で相互に提供すべき情報の内容。

等に関して検討、「医療機関 保健機関」連絡票を作成した。

会議の中では医療機関のニーズ、保健機関の実態等が深く討論され、なかでも保健機関側から、連絡にあたっては家族の同意の得られていることが、その後の保健活動の継続に強力な助けとなることから、家族の同意確認について明確化されるよう提案され、同意書を家族が記入する方法に決定された。(別添 連絡票、同意書参照)

参加者氏名

愛知県周産期医療協議会委員	豊橋市民病院新生児医療センター部長	小山 典久
愛知県周産期医療協議会委員	岡崎市民病院小児科部長	早川 文雄
愛知県保健所長	知多保健所所長	澁谷いづみ
愛知県関連の保健師	豊川保健所地域保健課長	水野 年子
愛知県市町村関連の保健師	愛知県市町村保健師協議会	日栄和歌子
愛知県周産期医療協議会事務局	名古屋第一赤十字病院 第二小児科副部長	鬼頭 修
愛知県周産期医療協議会事務局	愛知県健康福祉部児童家庭課主幹	岩田 徹也
愛知県周産期医療協議会事務局	名古屋市健康福祉局健康部健康増進課 母子保健係長	柏木 雅宣
愛知県周産期医療協議会委員 (調査事務局)	あいち小児保健医療総合センター 保健室長	山崎 嘉久

2.調査実施方法

調査は以下のステップで実施した。

- 1) 医療機関での調査同意確認並びに医療機関から保健機関への連絡票（患者情報）の送付
調査についての患者家族の同意医療機関で連絡が必要と判断した患者について、退院前の状況、退院後の問題点、療育の必要性や子育て支援の必要性の情報などを「連絡票」とともに主治医から保健機関に送付。患者・家族の「同意書」もあわせて送付する。連絡の有無にかかわらず調査に同意が得られた家族の「同意書」はすべて調査事務局に送付する。
- 2) 保健機関から医療機関への連絡票の返信
家庭訪問や来所相談などなんらかの保健サービスが初めて実施された時点で、その内容や今後の計画などを保健機関から医療機関に返信、その写しを調査事務局まで送付。
- 3) 家族へのアンケート調査（平成 15 年 5 月実施：退院後 4 ヶ月～半年経過した時期）
調査に同意が得られた家族（連絡票の有無に関わらず）に対して、退院後の保健サービスの利用状況や在宅での問題点などに関するアンケート調査を実施。
- 4) 保健機関へのアンケート調査（平成 15 年 5 月実施）
調査に同意が得られた NICU 収容児・家族に対する保健サービスの実施状況、医療機関との連携状況などについて患者別の調査を実施。
- 5) 医療機関と保健機関との連絡体制に関する施設アンケート調査
今回調査で使用した連絡票に関する意見、ならびに既存の連絡体制の実態と問題点の把握のため平成 15 年 5 月に関係機関へのアンケート調査を実施。

また、連絡先を明確にするため、関係機関の所在地、電話等の連絡方法の一覧を作成し配布した。（別添調査の流れ図を参照）

上記調査に対し次の方法で分析した。

- 連携の実態と連絡票の利便性に関する協議会関連医療機関・県内全保健機関アンケート調査の分析
- 医療機関が判断した連絡の必要性と、これを受けた保健機関の対応に関する検討
- 退院後 4～6 カ月経過した時点（平成 15 年 5 月）における家族アンケートによる子育て不安の状況
- 同時点における保健機関アンケートによる保健活動の実施状況と家族の把握状況
- 平成 15 年 5 月時点における対象家族等の虐待の発生状況

結果

1. 既存の医療機関と保健機関の連携の実態

県内では既に特定の医療機関と保健機関の間に所定の連絡システムを構築している地域を認めた。アンケートからは豊川保健所管内と豊橋市民病院との共通の連絡票、名古屋市保健所と主に名古屋市立大学関連の病院で共通の連絡票、さらに春日井保健所小牧支所関連の保健センターにおける連絡票の存在が明確となった。また、調査以外の情報として瀬戸保健所管内で共通書式を設ける試みが始まっている。

この一方、県内の 25 施設(25.6%)の保健機関において医療機関からの連絡を受けたことがないと回答されていた。

連絡が行われてきた医療機関において、これまでその連絡には問題はなかったと回答が多かったが、保健機関からは、88 施設中 24 施設 (27.3%) で、連絡基準の不統一性、親の不同意による守秘義務遵守や保健活動開始の困難さなどの問題が指摘された。

2. 医療機関が判断した連絡の必要性の検討

調査に同意が得られた 236 名の退院児のうち、医療機関が保健機関に連絡の必要があると判断したのは 79 例 (33.5%) であった。

表1. 連絡票の送付が必要と医療機関が判断した79例の医療的背景

医療機関の評価	(n=)	出生体重				多胎			療育、在宅医療が必要	その比率
		<1000g	<1500g	<2500g	2500g<	双胎	品胎	なし		
親に支援が必要 + 家庭に支援が必要	17	4	5	6	2	3	1	13	13	76.5%
親に支援が必要	22	1	3	9	9	7	2	13	12	54.5%
家庭に支援が必要	9	2	1	5	1	4	0	5	3	33.3%
「親・家庭への支援が必要」項目無記入	31	3	3	16	9	1	0	30	27	87.1%

連絡票の項目から、医療機関の判断として親に支援が必要な要因を有しかつ家庭に支援が必要な要因を有する 17 例 (親・家庭要支援群)、親に支援が必要な要因を有する 22 例 (親要支援群)、家庭に支援が必要な要因を有する 9 例 (家庭要支援群)、親または家庭の要因を有するとは判断されない 31 例 (支援必要なし群) に分類した。医療的背景と要支援の評価は独立していた。(表 1)

これらの事例に対して医療機関が求める保健活動は、親・家庭要支援群では早期の家庭訪問が多いのに対して、支援必要なし群では家族からの相談への対応の回答が多かった。

(表 2)

表2. 医療機関から保健機関に要望された保健活動項目

医療機関の評価	(n=)	医療機関からの要望			
		早期の家庭訪問	家族からの相談へ対応	他機関への連絡	その他
親に支援が必要 + 家庭に支援が必要	17	16	14	0	2
親に支援が必要	22	13	15	0	0
家庭に支援が必要	9	1	7	0	0
「親・家庭への支援が必要」項目無記入	31	9	24	0	0

3. 保健機関が実施した保健活動

保健機関による家庭訪問は、79 例中 1 例に実施、退院から訪問までの期間は平均 21 日(退院前 25 日～退院後 93 日)で、里帰り出産では実家に訪問の行われた例も認められた。親・家庭要支援群、家庭要支援群では、支援必要なし群に比べて継続的な訪問や積極的な介入を多く認め、この群の家庭へは積極的な対応が行われていた。(表 3)

表 3. 保健機関が今後継続的に対応すると連絡した内容

医療機関の評価	(n=)	継続的な対応方針					
		継続的な訪問	訪問継続の比率	積極的介入*	必要時に相談対応	健診等の来所勧奨	教室参加の継続
親に支援が必要 + 家庭に支援が必要	17	11	64.7%	1	1	5	0
親に支援が必要	22	7	31.8%	2	5	3	1
家庭に支援が必要	9	6	66.7%	0	1	3	0
「親・家庭への支援が必要」項目無記入	31	10	32.3%	0	7	14	0

*母子寮入所支援、定期的な電話連絡(2件)

4. 家族アンケートによる子育て不安の状況

236 例中 162 例から回答が得られ、連絡票が用いられた 52 例(連絡あり群)と連絡なし群 110 例で分析を行った。あり群における子育てについての不安度(67.3%)は、なし群(40.0%)より高く、かつ虐待群と健常群の中間に位置する値を示した。また両群とも健常群に比較して子育て以外の悩みの頻度が高い傾向を認めた。調査対象となった家族の子育て不安状況は、概ね虐待群ほど高くはないものの、健常群に比較しては高い傾向を示した。

(表 4)

表 4. 家族アンケートによる退院後 4～6 カ月時点での子育て不安に関する状況

子育てに関する質問項目	回答	今回調査対象例			参考値		
		全体	連絡票の必要性		健常群*	健常群**	虐待群**
		n=162	あり群 n=52	なし群 n=110	3カ月健 n=57	1～3歳 n=3,985	1～3歳 n=78
お子さんは育てやすいと感じますか?	いいえ	7.4%	1.9%	10.0%	5.3%	27.0%	56.6%
子育てについて不安になることがありますか?	はい	48.8%	67.3%	40.0%	49.1%	43.7%	75.3%
お子さんにかかってしまうことがありますか?	はい	30.2%	32.7%	29.1%	7.0%	75.6%	91.0%
子育てに夫婦の協力ができていると感じますか?	いいえ	6.2%	5.8%	6.4%	1.8%	14.8%	34.2%
子育てに悩んだ時に相談できる人が身近にいますか?	いいえ	4.9%	1.9%	6.4%	1.8%	3.0%	9.5%
子育て以外に現在とても悩んでいることがありますか?	はい	40.7%	42.3%	40.0%	8.8%	8.1%	27.1%

*3カ月健診での調査(低出生体重児、基礎疾患児をのぞく)

**キッズアンケート調査(1歳半健診・3歳健診)

5. 平成 15 年 5 月時点における対象家族等に関する虐待発生状況

医療機関または保健機関への二次調査で、調査対象期間中(平成 14 年 11 月から平成 15 年 1 月)に出生した子どもについて虐待または子育て上の問題から児童相談センターに連絡された事例を少なくとも 12 例認めた。このうち 1 例が今回の調査対象事例ではあったが、調査への同意が得られず保健サービスの実施状況等に関するデータは得られなかった。

一方、医療機関から保健機関への連絡票が用いられた家族の中には、家族、親、子どもの要因分析から、いつ虐待通告が必要となってもおかしくない要因を有する例も認められたが、平成 15 年 5 月時点でこの中から虐待の報告は認めなかった。(表 5)

表5. 虐待または子育て上の問題から児童相談センターに連絡した事例(平成15年5月時点)
平成14年11月～平成15年1月に病院または産院等を退院した事例

A.保健機関へのアンケート調査

	退院医療機関所在地	愛知県周産期医療協議会での医療機関の位置づけ	報告機関名	例数	連絡票利用状況
1	A市a区	地域周産期母子医療センター	A保健所	1	利用なし(患者同意なし)
2	A市a区	地域周産期医療施設	B保健所	1	利用なし(調査対象外医療施設)
3	A市b区	地域周産期医療施設	C保健所	2	利用なし(調査対象外医療施設)
4	A市	地域周産期医療施設	D保健所	2	利用なし(調査対象外医療施設)
5	A市	地域周産期医療施設	B保健所	1	利用なし(調査対象外医療施設)
6	A市c区	地域周産期医療施設	E保健センター	1	利用なし(調査対象外医療施設)
7	B市	地域周産期医療施設	A保健所	2	利用なし(調査対象外医療施設)
8	B市	地域周産期医療施設	F保健センター	1	利用なし(調査対象外医療施設)
9	記載なし	地域周産期医療施設	G保健所	1	利用なし(調査対象外医療施設)

B.医療機関へのアンケート調査

	退院医療機関所在地	愛知県周産期医療協議会での医療機関の位置づけ	報告機関名	例数	連絡票利用状況
1	A市a区	地域周産期母子医療センター	退院病院	2	利用なし(患者同意なし)
2	A市b区	地域周産期母子医療センター	退院病院		利用なし(患者同意なし)
3	A市d区	地域周産期母子医療センター	退院病院	1	利用なし(患者同意なし)

また、調査への家族の同意はあったものの医療機関から保健機関への連絡票が送付されなかった事例についても二次調査から虐待の報告は認めなかった。さらに保健機関に対する平成15年5月時点での保健活動実施状況調査から、対象事例に対して保健機関が「地域の関係機関の担当者によるケース会議や相互の連絡など家庭を支援する地域ネットワークが必要」と回答した事例は5例認めた。この5例は上記虐待事例には含まれておらず、保健機関などを中心として地域で対応が開始されている事例と理解された。(表6)

表6. 家庭を支援する地域ネットワーク*が必要と回答された事例(平成15年5月時点)

*(地域の関係機関の担当者によるケース会議や相互の連絡など)

	報告機関名	支援を必要とする理由		ネットワークの状況	連絡票利用状況
		医療・療育上	子育て支援上		
1	H町保健センター	発達の問題	母死亡、伯父伯母が養育中。	すでにネットワークがある	利用なし
2	I市保健センター	後遺症・合併症など	母外国籍、近隣からの孤立、子育ての不安	必要だがまだない	利用あり
3	J市保健センター	発達、後遺症など	子育ての不安	必要だがまだない	利用あり
4	K市保健福祉センター	発達、後遺症など	問題なし	すでにネットワークがある	利用なし
5	L保健所	発達、後遺症など	問題なし	すでにネットワークがある	利用あり

考察

愛知県周産期医療協議会関連の医療機関が判断した子育て支援の必要性は、保健活動の継続の必要性とよく一致していた。またその条件の整理や情報共有に今回作成した「連絡票」は有用である可能性が示唆された。今回の対象事例のうち医療機関または保健機関からの二次調査で、医療機関での調査の同意が得られず連絡票は用いられなかった事例に虐待の報告があった。また連絡票使用例の中での家族、親、子どもの要因分析から、いつ虐待通告が必要となってもおかしくないリスクを有する例も認められたが、この中から現時点で虐待の発生は認めていない。

今回の検討から、多胎や低出生体重児など虐待のリスク要因が高いグループに対して、子育て支援に視点をおいた連絡票を軸とした周産期医療と保健活動の連携による介入は有効な手段であると考えられる。この背景には医療機関が子どもの病気のみではなく親や家族の関係を分析する能力が高まってきたこと、保健機関が子育て支援の視点からこのようなハイリスクグループに対して積極的な取り組みを始めていることが関連している。

一方、今回は NICU 入院児など比較的長期の入院例が多く、医療機関も家族との関係形成に積極的な姿勢をもつ対象を用いた検討であった。要支援家庭であっても子どもにリスク要因の少ない出産は、さらに幅広い医療機関、助産施設で行われ、またその在院期間も1週間以内と短期である。このような対象に対して同様の手法が有効となるためには、病診・病病連携に保健機関をも交えた、子育て支援を軸とした地域でのネットワークシステムの構築、訪問や相談に係るマンパワー確保のための医療保険制度や福祉制度など社会システムの改革が必要である。

調査結果データ

連携の実態と連絡票の利便性に関する協議会関連医療機関および県内全保健機関アンケート調査の分析

医療機関と保健機関の相互連絡の経験	医療機関		保健機関		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
a.ある	10	83.3%	78	75.0%	88	75.9%
b.ない	2	16.7%	26	25.0%	28	24.1%
無回答	0		0		0	

どのような方法で連絡が行われているか	医療機関		保健機関		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
a文書を用いて	9	90.0%	69	88.5%	78	88.6%
b電話で	7	70.0%	56	71.8%	63	71.6%
c医療機関と保健機関との会議	5	50.0%	10	12.8%	15	17.0%
d保健師が病院に訪問	5	50.0%	19	24.4%	24	27.3%
eその他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

文書を用いる場合に利用する書式	医療機関		保健機関		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
a病院で作成した連絡票	5	50.0%	37	47.4%	42	47.7%
b保健機関で作成した連絡票	2	20.0%	24	30.8%	26	29.5%
c診療情報提供書	4	40.0%	3	3.8%	7	8.0%
d特別の様式はない	0	0.0%	23	29.5%	23	26.1%
e退院サマリー等を送付	3	30.0%	35	44.9%	38	43.2%
fその他	0	0.0%	7	9.1%	7	8.0%

fその他の内容						
保健機関	回答書は保健所で作成した様式を使用 看護サマリー 管内は病院、保健所、保健センター合同で作成した連絡票を用いています 名古屋市・市民病院と保健機関の「未熟児等退院届・母子連絡票」 病院と保健機関(保健所、市町村)で検討し作成した様式 病院と保健機関で相談して作成した連絡票 保健所支所管内で話し合いを持ち様式を決めた					

連絡にあたって不都合と感ずること	医療機関		保健機関		計	
a.ある	2	16.7%	24	23.1%	26	22.4%
b.ない	9	75.0%	64	61.5%	73	62.9%
無回答	1		16		17	

不都合と感ずる点 (医療機関)						
aどこに連絡するのかわからない	1	50.0%				
b保健機関の役割がわからない	1	50.0%				
c担当者がよく替わる	0	0.0%				
d連絡しても返事がこない	1	50.0%				
e手続きが面倒	0	0.0%				
f患者の状態を理解してもらえない	1	50.0%				
gその他	1	50.0%				
fその他の内容						
保健機関の指導方針が異なる(授乳など)						

不都合と感ずる点 (保健機関)						
a保健機関が必要としている情報が届かない			10	41.7%		
b内容がわかりづらい			3	12.5%		
c情報が遅い			4	16.7%		
d紹介を受けても家族への支援が困難			5	20.8%		
e紹介を受ける基準が主治医等によって異なる			7	29.2%		
fその他			13	54.2%		
fその他の内容						
保健機関	<p>医療機関によって情報に差がある 家族に連絡したとき、受け入れが“悪い”場合がある。 情報提供について、十分な了解が得られていない。 家族の了解が得られているか明確でない 管内機関外は連絡を取るのに窓口が分かりづらい 共通の様式があればよいと思う 今回調査ケースでの12月12日に退院し、情報連絡は2月17日であった。 産院との連絡ルート、関係作りが確立されていないため各保健師が連絡しづらい。 退院サマリーを送付頂ける病院に限られている。 病院からの情報提供および当事者からの承諾が得られていると介入しやすい 不都合時は電話連絡などしている。情報不足の時もある。 保健機関が保育園での対応を適切にするために、医療機関での様子、治療方針について情報を得たいと思うことは 多々あるが、母親の了解を得てということは困難な事もあり、その場合守秘義務を理由に情報を提供して頂けない。 養育医療申請で把握フォローしているケースで疾患についての上がほしかったが、(関連医療機関の病院だったが) 連絡がなかった。サマリーなどで略語などわからない場合がある。サマリーに疾患名は記入されておらず、 内服薬のみ記入されている場合があり、どんな疾患で何のために内服しているのか判断に困る場合がある。 連絡をくれない所が多いように思います。</p>					

調査機関中の虐待事例の発生	医療機関		保健機関		計	
a.ある	3	25.0%	59	56.7%	62	53.4%
b.ない	7	58.3%	45	43.3%	52	44.8%
無回答	2		0		2	

今回調査で作成した連絡票の利用	医療機関		保健機関		計	
a.利用した	8	66.7%	35	33.7%	43	37.1%
b.利用しなかった	4	33.3%	69	66.3%	73	62.9%

連絡票が役立った点(医療機関)		医療機関		保健機関		計	
医療機関	a退院後の様子がわかった	0	0.0%				
	b保健活動についてわかった	1	12.5%				
	c保健機関との患者情報共有	3	37.5%				
	dその他	0	0.0%				
	無回答	4	50.0%				

連絡票が役立った点(保健機関)		医療機関		保健機関		計	
保健機関	a患者把握に役立った			26	74.3%		
	b保健活動開始のきっかけ			16	45.7%		
	c医療機関との患者情報共有			14	40.0%		
	dその他			1	2.9%		
	無回答			3			
	dその他の内容	里帰り先に送付していただいたので即対応ができた。					

連絡票が役に立たなかった点(医療機関)		医療機関		保健機関		計	
医療機関	aすでに保健機関と連携しており他の方法と重複	3	37.5%				
	b保健機関からの情報が少ない	2	25.0%				
	cその他	1	12.5%				
	無回答	2	25.0%				
	cその他の内容	1回の調査では流れがつかめない					

連絡票が役に立たなかった点(保健機関)		医療機関		保健機関		計	
保健機関	aすでに医療機関と連携しており他の方法と重複			5	14.3%		
	b医療機関からの情報が少ない			7	20.0%		
	cその他			7	20.0%		
	無回答			20	57.1%		
	cその他の内容	育児支援に関する情報が無い。他の方法(連絡票)においては育児支援に関する情報も記載されている。同時に連絡を頂いた。医療機関が連絡の必要がないと判断した例についても、連絡をいただければ何らかの対応はさせていただきます。子育ての視点が弱い(親がどう受け止めているのか等)上記の通り役だった面もあったが、当区への滞在は一時的(里帰り中、母子寮入所中等)であったため、継続的フォローまでは至らなかった。情報が遅い 役立たなかった点はなかった。サマリーもついていた。					

連絡票の記載項目に対するご意見	
医療機関	連絡票もさることながら詳細に自宅でのケアをサポート頂きたい電話連絡することも多いようです。運用方法が複雑でわかりにくく感じました。送付先がわかりにくかった。もう少し単純に、(利用はしなかったが)使い勝手が悪いため検討中。
保健機関	以下のことを明確に記載してください。情報提供の目的(病院の期待、親の期待)、母子退院後の病院の援助方針、母子退院後の連絡先(自宅・実家の連絡先等)、情報提供することを親に了解を得ているかどうか(了解を得られない場合の理由等)、病院へ連絡する場合もあるので、連絡先を明確にして欲しい。 家族構成があるとよい。 必要に応じて母親の妊娠時の状況(不妊治療の有無や合併症など)があるとよい。 連絡票のみでなくサマリーもセットで作成していただくと統一した内容で連絡がとれるのでよいと思う。 家族への注意事項や退院時の指導事項の欄があると、保健指導に結びつけることができる。 子育てで不安についての具体的内容、医療機関がどう対応していたかがあると分かりやすいです。 今回、情報提供があったケースは、連絡票だけでなくケースワーカーからの電話連絡や診療情報提供書もあったので、ケースの情報共有しやすかったと思います。連絡票の送信票にも返信票と同様に「連絡事項」欄があり、医療機関から保健機関に伝えたい要望等を、チェックだけでなくことばで具体的に記載していただくと、支援目的がより明確になり保健機関としては支援しやすくなり、ケース(家族)にとっても効率的な支援になると思います。 今回の医療機関からの連絡は一度もありません。本調査を日常業務に反映してほしい。 診断名のみしか記入されていないので、実際にはどの程度の状態かわからない。 診断名は日本語での記入を希望します。 保護者の状況(特に精神面)についての記述があるとよい。記入漏れのないようお願いしたい。 早期に把握でき介入がスムーズに行えた。 出産、出生直後の状況および家族背景を確実に知ることが可能となったため支援も容易となった。 退院後の病院側のフォロー計画の概要があれば、情報として頂けると有り難いです。(次回の来院は、健診内容など) 連絡票は継続されるのでしょうか?連絡票よりも各医療機関から退院サマリーが確実に送付されるよう、指導していただきたいと思えます。病院からサマリーが直接届いた方がタイムリーに相談指導ができます。

医療機関が判断した連絡の必要性和、これを受けた保健機関の対応に関する検討

医療機関が判断した連絡の必要性の状況とその医療的背景

医療機関の評価	(n=)	在胎週数							
		<28週		<32週		<36週		36週<	
保健機関に連絡が必要と判断した例	79	4	5.1%	18	22.8%	24	30.4%	33	41.8%
親に支援が必要 + 家庭に支援が必要	17	1	5.9%	7	41.2%	5	29.4%	4	23.5%
親に支援が必要	22	0	0.0%	4	18.2%	7	31.8%	11	50.0%
家庭に支援が必要	9	0	0.0%	3	33.3%	2	22.2%	4	44.4%
「親・家庭への支援が必要」項目無記入	31	3	9.7%	4	12.9%	10	32.3%	14	45.2%
連絡票が必要ないと判断した事例	144	2	1.4%	7	4.9%	34	23.6%	101	70.1%

医療機関の評価	(n=)	出生体重							
		<1000g		<1500g		<2500g		2500g<	
保健機関に連絡が必要と判断した例	79	10	12.7%	12	15.2%	36	45.6%	21	26.6%
親に支援が必要 + 家庭に支援が必要	17	4	23.5%	5	29.4%	6	35.3%	2	11.8%
親に支援が必要	22	1	4.5%	3	13.6%	9	40.9%	9	40.9%
家庭に支援が必要	9	2	22.2%	1	11.1%	5	55.6%	1	11.1%
「親・家庭への支援が必要」項目無記入	31	3	9.7%	3	9.7%	16	51.6%	9	29.0%
連絡票が必要ないと判断した事例	144	2	1.4%	6	4.2%	63	43.8%	73	50.7%

医療機関の評価	(n=)	多胎						療育、在宅医療が必要	
		双胎		品胎		なし			
保健機関に連絡が必要と判断した例	79	15	19.0%	3	3.8%	61	77.2%	55	69.6%
親に支援が必要 + 家庭に支援が必要	17	3	17.6%	1	5.9%	13	76.5%	13	76.5%
親に支援が必要	22	7	31.8%	2	9.1%	13	59.1%	12	54.5%
家庭に支援が必要	9	4	44.4%	0	0.0%	5	55.6%	3	33.3%
「親・家庭への支援が必要」項目無記入	31	1	3.2%	0	0.0%	30	96.8%	27	87.1%
連絡票が必要ないと判断した事例	144	18	12.5%	0	0.0%	126	87.5%		

医療機関への連絡票の返信時までに保健機関が実施した保健活動

医療機関の評価	(n=)	連絡票返信時までに実施した保健活動					
		訪問指導	電話相談	来所相談	乳幼児健診受診	教室への参加	その他の活動*
親に支援が必要 + 家庭に支援が必要	17	16	7	1	0	0	2
親に支援が必要	22	15	5	1	7	0	0
家庭に支援が必要	9	9	2	0	4	0	0
「親・家庭への支援が必要」項目無記入	31	26	12	2	6	1	0

*その他：地域で活動している未熟児サークルの紹介、助産師による訪問2回

退院後4～6カ月経過した時点（平成15年5月）における家族アンケートによる保健活動の利用状況と子育て不安の状況

1. 保健機関からの連絡の有無	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
連絡があった	49	90.7%	58	50.4%	107	63.3%
連絡はなかった	4	7.4%	56	48.7%	60	35.5%
無回答	1		1		2	

2. 保健師の訪問	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
訪問を受けた	46	85.2%	43	37.4%	89	52.7%
訪問は受けていない	7	13.0%	72	62.6%	79	46.7%
無回答	1		0		1	

3(1). 保健師の訪問時の印象	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
a頼りになった	22	47.8%	15	34.9%	37	41.6%
b相談しやすかった	39	84.8%	32	74.4%	71	79.8%
c情報が判りやすかった	11	23.9%	13	30.2%	24	27.0%
d専門的な知識が役立った	7	15.2%	1	2.3%	8	9.0%
e保健や福祉の仕組みがよくわかった	0	0.0%	2	4.7%	2	2.2%
f何をしにきたかわからなかった	0	0.0%	1	2.3%	1	1.1%
g何をいっているかわからなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
hしゃべりにくかった	1	2.2%	0	0.0%	1	1.1%
i覚えていない	0	0.0%	1	2.3%	1	1.1%
jその他	5	10.9%	6	14.0%	11	12.4%

jその他の内容						
連絡票あり群	気分が滅入っていたときだったので楽になった。 とても親切だった。近くの小児科がどこにあるのか、電話番号を知りたかったのでたずねたらわざわざ調べて電話をくれた。 保健師さんによって話しにくいひとと、まあまあ話しやすかった人が居た。 頻繁に病院に通っていて、病院の先生や病院でできた友達などに相談や情報などを聞いていたので余り話すことがなかった。 普通					
連絡票なし群	一般的な訪問でした。体重・健康状態、分からないことは後日電話で…ということで、あまり相談できなかったです。 記念品のようなものをもってきてくれただけで、これといって、何の話をしたわけではなかったような…。 その時家にいなかったのわからない 電話が繋がらなかったため訪問して下さったようですが、実家に帰っていたため直接は会っていない。 とても話しやすい方で、母乳のことや育児のことを分かりやすく丁寧に教えてくださり助かりました。 未記入					

3(2). 今後継続的な訪問や相談の約束	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
aはい	8	17.4%	4	9.3%	12	13.5%
bいいえ	36	78.3%	40	93.0%	76	85.4%
無回答	2		0		2	

4. 保健機関に子どもを連れて行ったことがあるか	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
aあり	35	64.8%	96	83.5%	131	77.5%
bなし	17	31.5%	19	16.5%	36	21.3%
無回答	2		0		2	

5. 保健機関に子どもを連れて行った目的	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
a乳幼児健康診査	29	82.9%	85	88.5%	114	87.0%
b予防注射	23	65.7%	62	64.6%	85	64.9%
c子どもの健康や病気の相談	3	8.6%	5	5.2%	8	6.1%
d子育ての相談	4	11.4%	5	5.2%	9	6.9%
e公費受給	5	14.3%	11	11.5%	16	12.2%
f親子教室等への参加	4	11.4%	6	6.3%	10	7.6%
gその他	3	8.6%	7	7.3%	10	7.6%

6. 保健機関を気軽に利用できるか	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
aはい	21	38.9%	61	53.0%	82	48.5%
bいいえ	11	20.4%	15	13.0%	26	15.4%
cわからない	21	38.9%	37	32.2%	58	34.3%
無回答	1		2		3	

7. 保健機関を気軽に利用できない理由	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
a何をやる所かわからない	12	37.5%	19	36.5%	31	36.9%
bいつ行ったらよいかかわからない	18	56.3%	16	30.8%	34	40.5%
c連絡方法がわからない	2	6.3%	4	7.7%	6	7.1%
d子どもを外に出したくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
e雰囲気が好きでない	2	6.3%	6	11.5%	8	9.5%
f里帰り出産のため	0	0.0%	2	3.8%	2	2.4%
g保健所や保健センターが実家から遠いので	2	6.3%	10	19.2%	12	14.3%
hなんとなく	4	12.5%	13	25.0%	17	20.2%
iその他	9	28.1%	12	23.1%	21	25.0%

iその他の内容						
連絡票あり群	<p>上に子どもが二人いるので、なかなか連れて行けない。 上の子1人、下の子1人いるので、3人は連れて行けない。 上の子の学校、保育園の送り迎えの時間帯を考えると、家から遠いので疲れてしまう。 仕事をしていて行く時間がない。 設備が古く、ベビーカーでの利用が大変不便だから。 頼りになるのかよく分からない。 トラブルや分からないことがでてきたら相談に行こうと考えています。 保健所・保健センターが自宅から遠いので。</p>					
連絡票なし群	<p>(行政機構の改変のため)保健所・保健センター・健診センターが離れていてよくわからない。 一つのビルに入って総合的に相談するところがあればいいと思う。 お兄ちゃんのことでも悩んでいて(赤ちゃんがえり)健診後、それとなく聞いてみたけど、笑っただけで返事が返ってこなかった。 余り当てにならないのかなと思った。 健診や予防注射以外の利用法がわからない。 住民票と住んでいる所が違うので、どこに行ってもいいかわからないし、説明しても住民票のある市までいかないといけないので。 生後28日以内に出生の連絡のはがきを出すようにありましたが、28日以内に居住地に戻らないので(里帰りで)出生後2ヶ月で戻る旨の連絡をはがきに書いたが、保健師の訪問がなかったので…リストからもれているように思われた。 駐車場がない。注射や健診以外は行く用がない。 特に必要と思われない。 双子なので連れて行くのが大変。 双子のため、自分ひとりでは連れて行けません。 保育園の相談に行ったら、不親切だし、適当っぽく行くのが怖い！ 予防注射のほかになにをするんですか？</p>					

9. 心配事を相談できる相手があるか	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
aある	53	98.1%	107	93.0%	160	94.7%
bない	1	1.9%	7	6.1%	8	4.7%
無回答	0		1		1	

10. 主にだれに相談するか	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
a夫婦の間で	42	79.2%	96	89.7%	138	86.3%
b自分の兄弟姉妹	20	37.7%	37	34.6%	57	35.6%
c祖父母や親戚	44	83.0%	81	75.7%	125	78.1%
d近所の人	10	18.9%	16	15.0%	26	16.3%
e病院で知り合った友人	3	5.7%	7	6.5%	10	6.3%
f以前からの友人	23	43.4%	51	47.7%	74	46.3%
g病院の医師や看護師など	17	32.1%	19	17.8%	36	22.5%
h保健師など	9	17.0%	6	5.6%	15	9.4%
iその他	0	0.0%	6	5.6%	6	3.8%

11. 育てやすいお子さんだと感じるか	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
aはい	42	77.8%	88	76.5%	130	76.9%
bいいえ	1	1.9%	11	9.6%	12	7.1%
cわからない	11	20.4%	15	13.0%	26	15.4%
無回答	0		1		1	

12. 子育てについて不安になることがあるか	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
aはい	35	64.8%	45	39.1%	80	47.3%
bいいえ	15	27.8%	45	39.1%	60	35.5%
cわからない	4	7.4%	23	20.0%	27	16.0%
無回答	0		2		2	

13. お子さんについてカッとなってしまうことがあるか	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
aはい	18	33.3%	34	29.6%	52	30.8%
bいいえ	33	61.1%	73	63.5%	106	62.7%
cわからない	3	5.6%	7	6.1%	10	5.9%
無回答	0		1		1	

14. 子育てに夫婦の協力ができていると思うか	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
aはい	44	81.5%	95	82.6%	139	82.2%
bいいえ	3	5.6%	7	6.1%	10	5.9%
cわからない	6	11.1%	11	9.6%	17	10.1%
無回答	1		2		3	

15. 祖父・祖母は子育てに協力してくれるか	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
aはい	50	92.6%	92	80.0%	142	84.0%
bいいえ	2	3.7%	14	12.2%	16	9.5%
cわからない	2	3.7%	6	5.2%	8	4.7%
無回答	0		3		3	

16. 子育て以外に、現在心配な事はあるか	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
aはい	23	42.6%	44	38.3%	67	39.6%
bいいえ	31	57.4%	69	60.0%	100	59.2%
無回答	0		2		2	

16. 子育て以外に、現在心配な事の内容	連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
a子どもの病気のこと	13	56.5%	15	34.1%	28	41.8%
b子どもの将来のこと	13	56.5%	16	36.4%	29	43.3%
c生活のこと	7	30.4%	6	13.6%	13	19.4%
d経済的なこと	10	43.5%	16	36.4%	26	38.8%
eその他	4	17.4%	12	27.3%	16	23.9%

eその他の内容						
連絡票あり群	<p>4月に入院した際点滴で副作用が起きました。今後の対応はどうしたらよいのでしょうか。 PVLなので先のことがわからない。他の兄弟との関わりがうまくいかどうか。乳児医療のあるうちはいいけど、その後りハピリや検査等の経済的負担が心配です。 今は普通のこと変わらないと思いますが、病院では少し知能が遅れるかもしれないと言われたので、その知能がもしも遅れてしまったら普通の生活はできるのかどうかなど、知能が遅れない方法はないのかなあ？今は上の子のときと比べるとミルクの量が少なかったり、頭が上がれないなどありますが、少しずつできるようになってくれればいいと思います。 口唇口蓋裂であること、これからの将来のことについて不安で心配ですが、先日1回目の手術が終わり、今は前向きに考えています。 夫婦共に転職したところなので不安だが深刻に考えていない。両親と農業している。 未熟児出生のため、今後の発育発達面 子どもの将来、これから病気はどうなっていくのか？これからの世間の冷たさ(子どもに対して)お兄ちゃんに対してとやかく先がどうなるか、とても心配です。</p>					
連絡票なし群	<p>3月から姑と同居、ややボケも始まり姑への対応、介護に戸惑いを感じている。 夫の会社の状態が不安定のため 顔にあざ(太田母斑)があること 現在育休注のため職場復帰後の生活のこと、その際保育所など子どもの居場所について、 高齢出産の上シングルマザー、そして私は脳腫瘍(4年前手術)という病気を抱えてこの道を選んだ。今は恐さもなく毎日過ごしている。明るく楽しく生きていこうと思いますが、いつか落ち込むときがくることもあるのではと不安になったりする。周りに支えられて 膏肓灸の影響がいつ出てくるのか・障害が出たらどう対処したらいいのか、医療費がいくらかかるのかなど不安だらけ。 子どもが病気になったときに頼れる医者が近くにいない。救急外来でかかってもあまりきちんと診てもらえない。結局最終的に時間をかけ一宮市民病院まで行かなくてはいけない。 子どもの足指に奇形があり未熟児センター入院中にみてもらい以上はないとのことだったが、これから成長していく過程で靴が履けるか本当に大丈夫かなど不安でたまらない。また、どこに相談したらよいかわからない(大丈夫と医者に一度言われているが仕事復帰したいが子どもをどうするかなど 自分の両親、主人の両親がそれぞれあまり夫婦仲がよくないので心配している。 周囲に小さい子がいないので、友達ができるか、人と上手く接していけるか心配 小さく生まれたので発育のこと。東海大地震がいつ起きるかと思うと恐くて.. 近くに公園がなく、遊ぶところがない。 入院期間が10日と長めだったので、学資保険の加入を拒否された。退院後は通院もしていないし、健康状態にも影響を及ぼしていないのに日数だけで判断されて腹立たしい。 妊娠中に過換気症候群になってから、不安や心配事・考えごとをすると呼吸ができなくなり苦しくなる。この症状は流産2回死産1回してからなるようになり、いまだにある。主人の帰日も遅く、出張も多いため育児を手伝ってもらえないことも不安。実家が遠く、知り合いもあまりいない。子どもが夜中に病気になったときにどうしたらよいのか？土地感がなく心配。住まいがアパート3階のため、双子を連れて外出するのも難しい。一人で始めての双子の育児、病気をされた時の対処をどうしたらよいのか、とても不安。夜中に病気になったときの連絡先(病院)。 ちゃんに対してというよりも上の子との関係というか、2歳になったばかりでその子に手がかかってしまって、ほったらかしにしたこともあって..。あんまり深く考えてるわけではないけれど.. 病気は水腎症で腎盂と尿管の間が細いため尿が出にくいということ、尿が出ても腎臓にたまっているそうです。身体の成長と共に治っていく子もいるそうですが、もそうなって欲しいと願っています。食事とか成長していく上で気をつけなければいけないこととかがあるのでしょうか？もう4ヶ月になりましたので、離乳食は何を作ればいいのか、予防接種を受けてもいいのか気になります。私も頑張るから も頑張ってもらいたいと思います。 未熟児で生まれたため、満期産児と比べ、成長発達の度合いがわかりにくいので、医師に相談することが多い。未熟児網膜症で現在も治療・経過観察中で今後の視力などで不安、心配がある。</p>					

退院後4～6カ月経過した時点（平成15年5月）における保健機関アンケートによる
保健活動の実施状況と家族の状況把握

保健機関の家族把握状況		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
	把握あり	72	100.0%	119	72.6%	191	80.9%
	把握なし	0	0.0%	22	13.4%	22	9.3%
	未返信	0	0.0%	23	14.0%	23	9.7%

家族を未把握であった理由		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
	a保健機関の事業対象外			11	50.0%		
	bまだ健診の月齢でない			5	22.7%		
	c転居等			0	0.0%		
	d里帰り先から戻っていない			0	0.0%		
	e連絡がとれない			0	0.0%		
	f健診未受診			2	9.1%		
	gその他			6	27.3%		
	gその他の内容						
	赤ちゃん訪問でも特別問題なし 出生時、家族が保健センターに来所していない、健診案内通知該当者無し。 情報提供なく未把握。出生票確認するが該当無し。 当市母子保健管理としては対象外の方、一般と同じ健診で通過し問題なしのため管理対象となっていない。 連絡がこなかったため（h15.3.25、4ヶ月児健診異常なし） 後に実施した3か月児健診受診（H15.2.26）で発達OK						

家族の問題を把握した方法		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
	把握あり	72	100.0%	119	72.6%	191	80.9%
a	病院から情報提供	38	52.8%	17	14.3%	55	28.8%
	この調査で作成した連絡票	37	51.4%	2	1.7%	39	20.4%
	病院で作成した連絡票	18	25.0%	2	1.7%	20	10.5%
	保健機関で作成した連絡票	0	0.0%	3	2.5%	3	1.6%
	診療情報提供書	1	1.4%	1	0.8%	2	1.0%
	退院サマリー等	8	11.1%	2	1.7%	10	5.2%
	その他	2	2.8%	2	1.7%	4	2.1%
	病院からの電話	1	1.4%				
	病院ケースワーカーから電話連絡	1	1.4%				
	出生報告、訪問希望あり、南区実家に助産師派遣依頼。			1	0.8%		
	未熟児養育医療申請			1	0.8%		
b	低出生体重児届出書による把握	12	16.7%	11	9.2%	23	12.0%
c	家族からの相談	3	4.2%	8	6.7%	11	5.8%
d	健診の問診で認知	0	0.0%	40	33.6%	40	20.9%
e	出生票など	14	19.4%	45	37.8%	59	30.9%
f	その他	5	6.9%	21	17.6%	26	13.6%
	無回答	0		1		1	
fその他の内容							
連絡票あり群	出生報告提出の際、父と保健所で面接。 保健所へ提出する出生報告 養育医療申請 養育医療手続き時面接						
連絡票なし群	3か月児健診 家族、周囲の人からの情報 家族からの訪問依頼 健診受診で把握 出生報告のハガキを母からもらっていた 出生報告ハガキ 助産師訪問より把握 第1子家庭訪問の実施 第1子訪問 当市の赤ちゃん訪問連絡票より家族からの訪問希望あり、訪問で把握。 乳児健康診査受診票(第1回)結果報告 乳幼児保健カードを作成したのみで状況把握していない。 母から電話で出生報告があった 新生児訪問事業により把握 保健所からのケース連絡 保健所からの情報 本児の上の子の精神発達相談の時点で把握						

平成 15 年 5 月までに実施した保健活動

家庭訪問の実施		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
a.訪問あり		51	70.8%	17	14.3%	68	35.6%
訪問の予定がある		0	0.0%	2	1.7%	2	1.0%
今後の 予定	1)現在継続中	20	39.2%	2	11.8%	22	32.4%
	2)継続なし	28	54.9%	3	17.6%	31	45.6%
	無回答	3		12		15	

保健機関への来所相談の実施		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
b.来所相談あり		6	8.3%	10	8.4%	16	8.4%
来所相談の予定がある		0	0.0%	1	0.8%	1	0.5%
今後の 予定	1)現在継続中	4	66.7%	3	30.0%	7	43.8%
	2)継続なし	1	16.7%	7	70.0%	8	50.0%
	無回答	1		0		1	

保健機関への電話相談の実施		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
c.電話相談あり		25	34.7%	31	26.1%	56	29.3%
電話相談の予定がある		0	0.0%	1	0.8%	1	0.5%
今後の 予定	1)現在継続中	10	40.0%	12	38.7%	22	39.3%
	2)継続なし	11	44.0%	15	48.4%	26	46.4%
	無回答	4		4		8	

保健機関での乳幼児健康診査の実施		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
d.健診受診あり		28	38.9%	86	72.3%	114	59.7%
事後 の 個別 対応	1)現在継続中	13	46.4%	31	36.0%	44	38.6%
	2)継続なし	15	53.6%	51	59.3%	66	57.9%
	無回答	0		4		4	

育児支援教室への参加		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
e.育児支援教室への参加あり		4	5.6%	6	5.0%	10	5.2%
今後の 予定	1)現在継続中	2	50.0%	2	33.3%	4	40.0%
	2)継続参加なし	1	25.0%	3	50.0%	4	40.0%
	無回答	1		1		2	

他機関へのコーディネート、公費受給支援		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
f.他機関へのコーディネートの実施		4	5.6%	2	1.7%	6	3.1%
g.公費受給援助		1	1.4%	2	1.7%	3	1.6%
その 内容	療育手帳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	身体障害者手帳	1	1.4%	0	0.0%	1	0.5%
	小児慢性特定疾患	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	精神保健福祉法32条	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	乳児医療	5	6.9%	4	3.4%	9	4.7%
	その他福祉サービス等へのコーディネー	4		4		8	4.2%
その他の内容							
	子育て教室の紹介	1					
	訪問看護	1					
	養育医療	2					
	ファミリーサポート紹介			1			
	町の保健事業紹介			1			
	未熟児養育医療			2			

その他の保健活動		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
h.その他の保健活動の実施		14	19.4%	21	17.6%	35	18.3%
連絡票あり群	<p>10か月児アンケート事業において、10ヶ月時点の発達、育児上の心配をアンケート記入によるもので確認し、必要あれば援助。市市民病院で聴力の定期検査を受けているので、結果や状況について保健センターで確認していく予定。 市役所へ訪問結果を伝え、4か月児健診につなげた。 市役所へ訪問結果を伝え連携を図った。 居住地が蒲都市のため、そちらで3～4ヶ月児健診受診勧奨。相談等あれば保健センターへ連絡するよう話した。 里帰りしていたため、帰省時保健所に連絡し、後の経過は不明。 市外の母子寮へ訪問の2日後入所。育児環境上の援助は必要と思われる点を女性相談センター相談員に説明する。保健センターとの連携を取ってもらうよう伝える。 実家に帰っていたため初回は保健所。2回目は3月10日保健所が訪問。 児の発育発達を1歳6か月児健診でフォロー予定 地域で活動している未熟児サークル、子育てサークルの紹介 本ケースについてはH15.4.21付けで他府県へ転居したため当地の保健所へ連絡し、今後も保健師の訪問の継続を依頼</p>						
連絡票なし群	<p>3か月児健診後、H15.3.17乳児発達相談に来所。 3か月児健診受診勧奨 3月に4か月児健診の予定だったが、現時点では未受診。 4月以降が3～4か月児健診の受診月だが、結果がまだ戻ってきていない。 4月以降が健診予定だが、受診状況の把握はまだ。 3か月児健診で頭囲大、定額+-、筋トーンスやや低下で紹介状発行、病院受診しCT上水頭症はないが、外来フォロー。家庭の事情で実家に滞在中(H15.5月頃まで) 家庭福祉員利用のため、月1回福祉員宅へ訪問(H15.4入園となるまで) 健診の結果のみ把握。発育良好であり「自院経過観察」となっており、保健センターとしての対応はしていない。来所もが健診予定 里帰り先での新生児訪問を希望され保健センターで実施。実施結果について連絡受けた。 電話するが不在。留守番電話にメッセージ残すが返答なし。フォロー終了にした。 電話番号不明のため保健所保健師の役割等を書いた手紙を出し家族からの連絡を待ったが連絡なく、状況把握できなかった。 双子の育児サークル(チェリーズ)紹介、予防接種等保健サービス紹介 双子の育児サークルチェリーズ紹介、予防接種等保健サービスについて 保健サービス紹介 保健サービス紹介(予防接種・乳児健診等) 保健サービス紹介、母の受診勧奨 保健サービスの紹介 保健所に連絡をとり情報提供している。</p>						

上記で継続対応がない場合、その理由		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
a家族や子どもに問題がない		12	16.7%	48	40.3%	60	31.4%
b何かあれば家族から連絡がある		17	23.6%	31	26.1%	48	25.1%
c他機関に紹介したため		3	4.2%	1	0.8%	4	2.1%
d医療機関がフォローしている		7	9.7%	16	13.4%	23	12.0%
e他機関がフォローしている		2	2.8%	0	0.0%	2	1.0%
f家族が望まない		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
g家族から断られたため		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
hその他		3	4.2%	7	5.9%	10	5.2%
その他の内容							
連絡票あり群	<p>家族の支援もあり医療機関受診も定期的にされており、母からの訴え無し。 転居したため、当該保健所に訪問を依頼した。 実家から自宅に戻ったため</p>						
連絡票なし群	<p>医療機関から家庭で様子を見るようにいわれており、次の6ヶ月児相談で他児と同じように確認すればよいと判断したため 医療機関のフォローも半年後に念のためというレベル。 医療機関のフォローも不要となった。 近日中、実祖父母宅へ転居予定で相談先が近くにある。 出生後に転居(H15.1.6)、12月に電話するが留守で一度も話ができていない 母の実家に2ヶ月程度里帰りしていた。必要時相談を受ける体制をとった。 母乳栄養の確立 町の6～7ヶ月児健診でフォロー。</p>						

平成 15 年 5 月までに保健機関が把握した家族の状況

父親、母親にあると判断された問題		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
	a子育ての不安	15	20.8%	9	7.6%	24	12.6%
	b若年出産	4	5.6%	0	0.0%	4	2.1%
	c高齢出産	1	1.4%	6	5.0%	7	3.7%
	d親の精神疾患や心の問題	0	0.0%	1	0.8%	1	0.5%
	e愛着形成不全	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	f妊娠中・出産後の母体の合併症	1	1.4%	2	1.7%	3	1.6%
	g親の知的障害など	1	1.4%	0	0.0%	1	0.5%
	h相談等にのらない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	iその他	8	11.1%	7	5.9%	15	7.9%
その他の内容							
連絡票あり群	経済不安定、父の職業が不規則(やくざ)。 双胎だが妊娠中1胎胎児死亡しており、母精神的に不安定さがややあり。 母親の精神的安定と経済的な問題。 母の本症罹患が本児出生により明らかになり、それに伴う罪悪感や苦悩がある。 母フィリピン人で、日本語が理解しづらく、また、容易に近隣に相談できない。 双子の会等があるか 三つ子で核家族						
連絡票なし群	就園前の子どもが本児を含め3人で、子育てに支援が必要である。祖母2人が協力している。 シングルマザー 母親は日本人だが、外国育ちのため言葉が殆ど通じない(スペイン語)。 母死亡、父は仕事、本児の姉の世話もあり、本児の養育を父の姉に依頼。 本児ではなく上の子への関わり わかりません						
	i問題はない	30	41.7%	85	71.4%	115	60.2%
	無回答	12		9		21	

家族にあると判断された問題		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
	a子育てに不慣れ	6	8.3%	5	4.2%	11	5.8%
	b子の世話が不十分	1	1.4%	0	0.0%	1	0.5%
	c単親家族	1	1.4%	2	1.7%	3	1.6%
	d経済的問題	2	2.8%	0	0.0%	2	1.0%
	e祖父母や親族と疎遠	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	f隣近所や地域など社会的に孤立	1	1.4%	3	2.5%	4	2.1%
	gその他	4	5.6%	4	3.4%	8	4.2%
その他の内容							
連絡票あり群	姉に若年性糖尿病あり 夫の育児協力が少ないことについて母より不満あり。 母自身が慢性腎炎により生体腎移植しているため、体調等に問題がある。 両親がよくけんかする						
連絡票なし群	伯父伯母が養育中。父は週1回本児に会いに行く。 祖母の思いと父母の思いのずれ わかりません						
	h問題はない	41	56.9%	92	77.3%	133	69.6%
	無回答	5		12			

子どもにあると判断された問題		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
	a発育(体重、身長)が不良	8	11.1%	9	7.6%	17	8.9%
	b発達の遅れ	3	4.2%	10	8.4%	13	6.8%
	c後遺症、合併症など身体的疾患がある	7	9.7%	10	8.4%	17	8.9%
	dその他	5	6.9%	8	6.7%	13	6.8%
その他の内容							
連絡票あり群	5月4ヶ月児健診予定。現在の状況は未把握。 Cの恐れがある 臍ヘルニア 眼瞼の腫?						
連絡票なし群	7ヶ月児健診前日、卵ポローで全身に発疹、アレルギー。上の子の言語発達遅れ。 CT上水頭症はないが、小脳虫部やや小さいので外来フォロー中。 音反応要確認 開排制限(+ -)要観察。 健診時間こえの問題? 重症新生児仮死で産院がフォローしている 聴力反応が他児よりゆっくり。 低体重出生のため医療機関でフォローされている						
	e問題はない	33	45.8%	70	58.8%	103	53.9%
	無回答	5		12		17	

地域の専門機関・療育機関の利用についての問題		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
	a子の障害の受容ができない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	b療育機関につながらない	1	1.4%	0	0.0%	1	0.5%
	c専門機関への信頼が希薄	0	0.0%	1	0.8%	1	0.5%
	dその他	6	8.3%	1	0.8%	7	3.7%
その他の内容							
連絡票あり群	今のところ医療機関の利用のみですが、将来的には地域の療育機関の利用が必要になった時に課題が出るかと思う。 健診の結果による 施設に通う移動手段がない。疾患の受容はしているが将来の展望に期待感が大きく、療育にまで考えが及んでいない。 退院後未受診 低年齢のため 遠い、交通の便が悪い						
なし群	経過観察中のため						
	e問題はない	32	44.4%	70	58.8%	102	53.4%
	f地域の専門機関や療育機関の必要はない	17	23.6%	46	38.7%	63	33.0%
	無回答	4		13		17	

家庭に保健機関からの支援が必要か		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
	a必要である	25	34.7%	27	22.7%	52	27.2%
	b当面は必要ない	27	37.5%	75	63.0%	102	53.4%
	cわからない	1	1.4%	2	1.7%	3	1.6%
	無回答	19		15		34	

家庭に地域で支援するネットワークが必要か		連絡票利用あり群		連絡票利用なし群		計	
	aすでにネットワークがある	1	1.4%	2	1.7%	3	1.6%
	bネットワークは必要だができていない	2	2.8%	0	0.0%	2	1.0%
	c必要ない	42	58.3%	90	75.6%	132	69.1%
	dわからない	2	2.8%	10	8.4%	12	6.3%
	eその他	5	6.9%	0	0.0%	5	2.6%
	無回答	20		17		37	
その他の内容							
連絡票あり群	転居のため状況は不明ですが、地域での支援は必要。 現時点では必要ないが、今後、姉の就園等で必要になってくるかもしれない。 現時点では必要ないが、今後の発達状況により必要になると思われる。 個別にはその都度保健センターに連絡はとっているが、地域としてのネットワークはない。 女性センター、母子寮でのフォローがあると思われる。その後の経過がわかればもっとよりよいのではないと思われる						

A.送信票 _____ 保健センター・保健所御中

(患者氏名) _____ 様について、ご家族の同意に基づいて連絡致します。今後、地域での保健サービス等について格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。 記入日：平成
年 月 日

平成 年 月 日生 性：(男・女) 在胎： 週 日、出生時体重： g
多胎：なし・あり(双胎・品胎・ 人) 同胞：第 子/ 人(同胞数)
退院日：平成 年 月 日、退院時体重： g
1. 診断名：(合併症や慢性疾患等もあれば記載)
2. 保健サービス勸奨の理由(はいくつでも) 療育、在宅医療が必要：低出生体重・基礎疾患・経管栄養・在宅酸素・その他()) 親に支援が必要：子育て不安・(若年・高齢)出産・心の問題・愛着形成不全・妊娠中の合併症・その他()) 家庭に支援が必要：子育てに不慣れ・単親家族・家族の社会的孤立・その他()) その他(親の状況、後遺症、治療歴ほかで特記すべき点)
3. 保健機関での対応について特に要望したい点(はいくつでも) 早期の家庭訪問 家族からの相談への対応 他機関への連絡(療育機関、福祉機関、) その他())
病院名 _____ 科 主治医名()) 住所・連絡先 _____ 看護師名())

B.返信票 貴院よりご連絡を頂いたお子様とご家族に対して、現在までに以下のような保健活動を実施しましたので報告致します。今後とも何卒よろしくようお願い申し上げます。 記入日：平成
年 月 日

1. 現在までに実施した保健活動(はいくつでも) 訪問指導 平成 年 月 日 乳幼児健診受診 平成 年 月 日()健診 来所相談 平成 年 月 日 教室への参加 平成 年 月 日()教室 電話相談 平成 年 月 日 その他活動())
2. 現時点での子どもと家族に対する印象(保健サービス実施上の問題点など)
3. 今後の保健活動の計画(はいくつでも) 継続的な訪問(なし・あり) 教室への参加継続(なし・あり) 他機関への連絡(なし・あり)連絡先(児童相談センター、福祉施設、療育施設、)) その他())
4. 医療機関への連絡事項 保健機関名 _____ 保健師名()) 住所・連絡先 _____

この連絡票は平成14年度愛知県周産期医療協議会の調査研究事業として、医療機関、保健機関のご協力と患者、家族の同意に基づいて送付されています。

医療機関へのお願い A.送信票にご記入頂いた後、3枚とも切り離さずに当該保健機関までご送付ください。なお、本調査に関する家族の同意書、および(必要であれば)貴病院でご使用中の退院サマリー・母子連絡票などもあわせて添付ください。

保健機関へのお願い B.返信票にご記入頂き、平成15年3月迄に2枚目と3枚目を、当該医療機関ならびに調査事務局(あいち小児保健医療総合センター)にそれぞれ送付お願い申し上げます。調査事務局へのご送付には返信用の封筒をご利用ください。

NICU（または新生児病棟等）退院後の
地域での支援体制（保健師活動）の実態調査（同意書）

主治医ならびに愛知県周産期医療協議会宛

私は、平成 14 年度に愛知県周産期医療協議会で行われる「NICU（または新生児病棟等）退院後の地域での支援体制（保健師活動）の実態調査」に関して別添の文書に基づいて医療機関から説明を受け、よく理解しました。

下記の者について、1) 今回の調査に参加します。また 2) 医療機関が家族との話し合いのうえで必要と判断した場合には、退院後に十分な保健サービスを受けるため医療機関から保健機関に連絡票などを用いて連絡することについてもあわせて同意します。

平成 年 月 日

同意者の氏名：_____

患者様・ご家族様へ

下にお名前、ご住所、里帰り先（もしあれば）等についてご退院までに記入頂き主治医までご提出ください。

患者様氏名：	_____	平成（ ）年（ ）月（ ）日生	男・女	
保護者氏名：	_____	続柄（父・母・	_____）	
現住所：	_____			
〒□□□ - □□□□	電話：（ ）（ ）（ ）	_____		
_____市・郡	_____区・町・村	_____番地	_____	
(アパート名等)	_____			
里帰り先：	_____			
〒□□□ - □□□□	電話：（ ）（ ）（ ）	_____		
_____市・郡	_____区・町・村	_____番地	_____	
(アパート名等)	_____様方			
ご入院病院名：	_____	主治医名：	_____	
ご退院日（予定）：	平成（ ）年（ ）月（ ）日頃			

医療機関記入欄（ご家族と話し合いなどのうえで、次の A または B を選択し を記してください）

A. 保健機関への連絡の必要なし ご家族にご記入頂いた後、1 枚目のみを調査事務局（あいち小児保健医療総合センター）宛て返信封筒にて送付ください。この情報を基に家族宛アンケート用紙を送付します。

B. 保健機関への連絡の必要あり ご家族にご記入頂いた後、1 枚目を調査事務局に、2 枚目を当該保健機関に、「連絡票」および(必要なら)貴病院でご使用中の連絡用の書類などとともに送付ください。

医療機関へのお願い

この用紙は、保健機関への連絡の有無に関わらず平成 14 年 11 月～平成 15 年 1 月に退院になるすべての患者様・ご家族に渡してください。

愛知県内のNICU等退院児への地域での支援体制（保健師活動）の実態調査（調査の流れ）

